

## 生産性向上実現プログラム取組結果発表会を開催

〔資源活用課〕 2月15日に中部森林管理局において、昨年に引き続き第2回となる「生産性向上実現プログラム取組結果発表会」を開催し、管内の素材生産事業者や県等から104名、国有林関係者80名の計184名が参加し開催されました。

中部森林管理局の生産性向上実現プログラムの取組は、林業・木材産業の成長産業化の実現のため、民有林、国有林共通の課題である素材生産事業の生産性向上に取り組み、地域の林業のさらなるレベルアップを図るもので、昨年度から始めたものです。今年度は、管内国有林のフィールド10ヶ所にモデル事業地を設定し、生産性の目標設定や、事業者と県等の現地検討会・勉強会の開催のほか、作業日報の作成による生産性の把握・分析や、PDCAサイクルを活用した作業システムの改善検討などを、国有林の職員や事業者、研究者等の専門家が一体となって取り組みました。



開会にあたり挨拶する新島局長



発表の様子

開会にあたり新島局長からは、モデル事業に取り組みました関係者へのお礼とねぎらいの言葉とともに、なぜこの取組が必要なのかについて「かつては安い労働力と高い材価で乗り切ったが今は違う。コスト削減ができないとどうなるかは目に見えている。山を管理するものとしてそうあってはならない。生産性向上のこうした国有林での取組を民有林へ波及させていくことが重要。今日の発表会を生かし、来年度に向けてのスタートにさせていただきたい。また、一つの労働災害で全てが泡になることを踏まえ、労働安全の確保をお願いする」と挨拶がありました。

発表会では、全てのモデル事業地の実行事業者と森林管理署等の担当者から、事業内容、作業システムの工夫や日報分析によるボトルネックの把握と改善、PDCAサイクルの活用など生産性向上に向けた具体的な取組内容、取組の成果や課題等について発表が行われました。この結果、モデル事業地全体では、目標値に対して約1.5倍の生産性向上がみられました。

発表終了後、優良取組事例の表彰が行われ、今回は、信州カラマツを主体に生産する長野県東信地域で、高密路網を作設し、区分されたブロック単位で木材搬出の効率化を図る作業システムに取り組み成果を上げた南佐久北部森林組合（代表理事佐々木定男）〔東信森林管理署〕が最優秀賞を、（組）山仕事創造舎（代表理事香山由人）〔中信森林管理署〕、GEEP Forest(株)（代表取締役曾根洋人）〔岐阜森林管理署〕がそれぞれ優秀賞を受賞しました。

アドバイザーの京都大学藤野正也特定研究員からは、「この取組を通じ、一人一人が日常の業務の中で何か一つを改善するといったイノベーションが、全体の底上げに繋がる。まだまだ長い道のりであり、事業体がひとりでやろうとするとくじける。国有林や県等による技術面などのサポートを、今後は、民有林に対しても期待したい」との今後の取組に期待する講評をいただきました。

最後に、木村次長から「資源の循環利用といった中で、山主にいかに多くの利益を還元できるかが大切」と、生産性向上、低コスト化に取り組む目的とともに、参加された皆さんへの感謝とねぎらいの言葉で閉会しました。



表彰状の授与



表彰式終了の記念写真